

放射線と健康に関する講演会



↑放射線と健康に関する講演会の様子

2月7日(土)、広野町保健センターで「くらしと放射線 広野町のいま」と題して、第5回「放射線と健康に関する講演会」を開催しました。講師は、「広野町放射線健康管理アドバイザー」であり「広野町除染等に関する検証委員会」の委員長も務める、公立大学法人福島県立医科大学・災害医療総合学習センターの熊谷敦史・副センター長です。熊谷さんは、「放射線によるリスクのみにとらわれず、喫煙、大量飲酒、運動不足などのリスクを高めてしまわないように、バランスのとれた判断をすることが求められ、そのためには正しい知識を身に着けることが重要である」ことを、受講者に分かりやすく説きました。

「町長との懇談の日」を開催



↑「町長との懇談の日」の様子

2月10日(火)、初めての「町長との懇談の日」を開催しました。これは、町民の声を町政に反映させる目的で行うもので、初回は6組の町民が参加し、町政についての意見や、まちづくりへの提言などを町長と話し合いました。

3町村合同の要望活動



↑3町村合同要望活動の様子

2月9日(月)、旧緊急時避難準備区域を有する広野町、楢葉町、川内村の3町村合同で復興庁および厚生労働省への要望活動を実施し、遠藤町長らが竹下亘復興大臣および塩崎恭久厚生労働大臣へ要望書を手渡しました。要望の内容は、免除措置の期限が2月末日までとなっている①国民健康保険一部負担金、②後期高齢者医療一部負担金および③介護サービス利用料の免除措置の3月分以降への継続、ならびに同じく期限が3月末日までとなっている④国民健康保険税、⑤後期高齢者医療保険料および⑥介護保険料の免除措置の4月分以降への継続を求めます。

駅美化運動の感謝状を披露



↑感謝状を披露する広野駅環境美化推進協議会会長ら

広野町広野駅環境美化推進協議会と広野町婦人会に、今年度も東日本旅客鉄道株式会社から感謝状が贈られ、平成26年11月10日(月)、両会の会長らが町長に披露しました。これは、両会が日ごろからJR広野駅の駅美化活動に尽力していることに対して贈られたものです。

第21回伊東温泉めちゃくちゃ市に出店



↑めちゃくちゃ市の来場者につきたて餅を振る舞う町長

1月24日(土)、25日(日)の2日間、静岡県伊東市で第21回伊東温泉めちゃくちゃ市が開催され、広野町は新鮮野菜の販売ブースを出店するとともに、広野産の、もち米を使ったつきたて餅の無料配布を行いました。初日の24日は、遠藤町長自ら餅をつき、来場者に餅を振る舞いました。伊東市とは震災直後の平成23年7月28日に災害時の相互応援協定を締結しており、町は継続的な支援に対する感謝と、農産物に対する風評被害を解消するため、この催し物に毎年参加しています。

子ども・子育て支援会議を開催



↑子ども・子育て支援会議の様子

1月21日(水)、広野町子ども・子育て支援会議を開催し、遠藤町長が各委員へ委嘱状を交付しました。この会議は、子ども・子育て支援法の制定に基づくものです。

ふくしま浜街道・桜プロジェクト祈念植樹



↑桜の苗木を祈念植樹する高校生たち

2月15日(日)、常磐自動車道の広野インターチェンジ近くの「未来への桜ヶ丘」で「ふくしま浜街道・桜プロジェクト」実行委員会主催の祈念植樹が行われました。祈念植樹には広野中学校の生徒や双葉翔陽高校をはじめとする高校生も多数参加し、「30年後の故郷への贈り物」をしっかりと大地に植えました。

「うつくしまの道・サポート制度に関する合意書」に調印



↑「うつくしまの道・サポート制度に関する合意書」調印式の様子

1月27日(火)、広野町役場で「うつくしまの道・サポート制度に関する合意書」の調印式が行われました。この制度は、地域住民や団体などが地元市町村と協力しながら、道路の清掃、美化活動を行うもので、福島県が推進しています。今回は、特定非営利活動法人ハッピーロードネットが、一般県道北上北迫線のうち常磐自動車道広野ICから一般県道広野小高線交差点までの清掃、美化活動の協働に合意するもので、同団体の西本由美子理事長、福島県の相澤広志・富岡土木事務所長および遠藤町長が、合意書に調印しました。